

(別添2)

自己評価及び外部評価結果
作成日

令和 3年 9月 25日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774600635		
法人名	株式会社 日本ケアコンサルティング		
事業所名	グループホーム柏原		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府柏原市石川町4-2		
自己評価作成日	令和 3年 9月 25日	評価結果市町村受理日	令和 3年 11月 26日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	http://www.osaka-kaigohoken-kohyou.jp
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人エイジコンサーン・ジャパン
所在地	大阪市住之江区南港北2-1-10 ATC ITM棟9階
訪問調査日	令和 3年 10月 22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様は、毎日の日課として体操、嚙下体操、歌等に参加され日常生活を送っておられます。現在コロナ禍な為、毎日施設の周りを散歩し気分転換をして頂いています。気候のいい季節には青空ランチをし、外の空気を吸いながら食事をするのは格別に美味しいと喜んで頂いています。コロナ禍前は、ボランティアによる、ドッグセラピー・歌体操等を開催していましたが、外部からの入館を控えていますので、リモートで幼稚園児の歌や踊りを鑑賞し、またコミュニケーションを図り、外部との繋がりをとっています。レクリエーションにおいても力を入れ、利用者様に楽しい時間を過ごして頂くようにしています。職員のスキル向上の為、定期的な職員研修を行い個々の技術や知識を高めています。利用者様に対してより良い介護が出来るように努めています。そして一人一人の利用者様に対して、その方の思いに沿ったケアが出来る様に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

グループホーム柏原は地元の柏原市で長年にわたり、高齢者認知症の方々の為の集団生活支援をされている福祉施設である。入所されている方々には、一人ひとり自分専用の居室が用意されており、自由にのびのびと生活をされている。施設の支援内容については理念のひとつにも謳われているように、入居者が自分で出来る事の喜びを味わえる様な生活ができる事を目指されている。外部からの第三者からの客観的な評価の審査も受けられており施設の運営は明朗なものといえる。施設の地域との交流も本来ならば地元の行事の参加やボランティアの受け入れもされてはいるところであるが、予期せぬコロナウイルス感染防止対策の為に、ここ暫くは中断状態を余儀なくされている。コロナ渦の収束後の近隣との交流を期待するものである。施設内では常に福祉支援の質の向上を図るの為に勉強会や研修を実施されている。職員も自己研鑽に励んでおりその成果を福祉支援に繋げていくように努めている。

ホーム名: グループホーム 柏原 いこい					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に利用者様第一主義に努める。思いやりのある接遇。常に利用者様に寄り添い心のもったケアを実践する。	理念の文言三ヶ条はグループホーム玄関入口と各ユニットのフロア内に、職員への再認識と周知の目的をもって高く掲載されている。これらの実現を図るために日常における支援上のスタッフ理念も策定されており当事業所の福祉精神とされている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在コロナの影響で、交流できていない状況である。一日でも早く終息し、交流を再開し祭りや町会の行事に参加して行きたい。	今期も感染防止対策の為、自治会も閉会されており、地元との交流活動も中断状態にある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩等外出時には、ホームの職員からの挨拶を心掛けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、内部開催での実施となっている。会議録は都度提出している。	コロナ禍の為に運営推進会議は内部職員だけの開催とされ、従来からの参加者には事業所内の支援内容や行事の進行状態を書面にて郵送報告の上、それに対する意見を求める形にしている。	事業所の運営方針の決定は家族にも周知されることが望ましいとされます。その事を考慮されますと家族への議事録の配布も求められる事になります。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	研修があれば、積極的に参加している。地域密着型の事業所部会にも参加し、情報交換等をしている。	市で開催される事業所部会連絡会に毎回参加しグループホームの近況支援についての情報交換なども行われている。市には直接、運営推進会議議事録を提出したりして積極的な関わりを展開されている。最近ではインフルエンザ予防接種に申請しに行ったりしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を立ち上げ、職員全員が拘束について、勉強し理解を深め、拘束をしないケアを、実践できるようにしていく。	重要事項説明書や運営規定に基づいた身体拘束禁止の事項を遵守している。職員の定期的な勉強会を開催し拘束のない支援のスキル向上を目指している。勉強会の内容はフロア内に配布され常に実践出来るように努めている。出入口の施錠については利用者の安全確保と不審者の侵入を防ぐ為のものであり家族の同意も得ている。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所などでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待委員会を立ち上げ、職員全員が虐待について勉強し理解を深め、虐待をしないように周知徹底する。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修等に参加し権利擁護・成年後見制度について学んでいる。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>十分な時間を取り、説明しわからない事や疑問があれば、納得してもらえるまで説明をしている。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者様や家族様とは、密にコミュニケーションを取り、意見や要望等を言いやすい雰囲気作りを心がけている。要望等があれば、都度カンファレンスを行い、問題解決に取り組んでいる。</p>	<p>意見や要望はユニットリーダーに話してもらっている。これは実際の支援に携わっている職員を通じて把握される事の重要性を考えての事とされている。管理者はその報告を受け可能な形で運営の反映に努めている。意見箱の設置はされているが利用はされていない。</p>	
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>定期ミーティング時に、各職員の意見や提案を発言する機会を設けている。</p>	<p>職員との会議での意見聴取はもとより、個人的な面談時の意見や提案も積極的に取り入れるようにして、運営上の支援に反映出来るように努めている。</p>	
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>努力や実績が認められた場合、給与及び賞与に反映される。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月1回の幹部会議と職員研修を開催しスキルアップに努めている。また毎月フロア会議を開催し、業務の見直しや技術、知識の向上に努めている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>現在コロナ禍の為、以前の様な同業者との交流は難しいが、終息したら勉強会等を開催しサービスの向上に取り組んでいきたい。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>面談の際、ご本人の不安な事、要望、困っている事等を拝聴し、納得し安心して利用して頂ける様に努めている。</p> <p>要望にも都度対応し、納得してもらえるように努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>面談の際、ご家族の不安な事、要望、困っている事等を拝聴し、納得し安心して利用して頂ける様に努めている。</p> <p>要望にも都度対応し、納得してもらえるように努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>現在の状況を十分に検討し、入居以外の方法も模索し、助言している。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ご自身で出来ることはして頂き、出来ない事についても声掛けを行い、ゆっくりと本人主導の介護を行っている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族様には積極的に面会に来て頂くように声を掛けている。また行事の時は、ご本人様と過ごして頂ける様に取り組んでいる。(現在はコロナの為、面会制限中)</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>オープンなホームを目指し、今までの交流が途切れないようにバックアップしている。</p>	<p>知人との通信や訪問の受け入れなどは常に門戸を開いている。現状では利用者の加齢や認知症の度合いによっては自発的な要望は殆ど見受けられなくなっているが、これまでの関係継続についてはこれからも支援していく態勢には変わりはない。</p>	
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者様同志が、コミュニケーションを取れるように席の配置や、レクリエーションを考え、交流が出来る環境作りに努めている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービス終了後も家族様に年賀状を送付したり、電話で近況を確認し、関係を断ち切らないように努めている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人としっかりとしたコミュニケーションを取り、思いを汲み取りご本人の望む暮らしが送れるように努めている。	利用者の個性を知るうえで一番大切なものはコミュニケーションである事はスタッフの理念にも加えられている。ADLの記録もしっかりと加味し利用者の思いをくみ取るように努力されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	利用者や家族様に聞き取りをしながら、全職員でこれまでの生活歴を共有し、ご本人らしい生活が送れるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的なカンファレンスを行い、ケア記録や日々接している職員の意見ももとに一日の過ごし方、心身状態、現在出来ている事、できないことの把握をチーム全体で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	どのような生活を送り、どのような支援をすれば、その人らしい生活を送れるのかを、ご本人と密にコミュニケーションを取り職員間で情報を共有し、またご家族の思いも反映させ利用者様、家族様の意向に沿った介護計画書を作成している。また変化が見られた時には、都度みなおしをしている。	モニタリングやADLから得られた結果をユニットの職員と共に検討し、介護計画案として練り上げ、家族に提示し意向も取り入れて再検討し同意された事を確認された上で介護計画書として完成させている。期間は3か月とするも状況によっては随時見直しはされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケア記録、フロアノートの中に気づき等記入しカンファレンス時に計画の見直しを行うように活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じ車を出し、利用者様や家族様の負担を軽減できるような取り組みを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年1回消防署より消防訓練に来て頂けるように努め、利用者様が安心して暮らしていける環境作りに努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、家族様の同意のもと、24時間体制で見てもらっている。利用者様に何か変化があれば、すぐに連絡を取り指示を仰いでいる。	入所以前からのかかりつけ医を希望されている方にはその関係が継続されるようされている。事業所の協力医としてはヤスタクリニクから月2回の訪問診療とその隔週毎に訪看も行われている。緊急時には24時間体制である為安心である。	

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>隔週で看護師が来所し、利用者様の状況を報告し相談・助言を頂いている。また異変が見られた場合は、すぐに連絡し指示を仰いでいる。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>コロナ前は、定期的に面会に行き、状態の把握に努め、退院時の迎え入れの準備を行っていたが、現在は、面会できないので、地域医療連携室や担当看護師と情報を交換し、退院の迎え入れ準備をしている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>主治医を中心に、訪問看護師、ホームスタッフ、家族様と連携を取り利用者にあつた方針を考え支援している。</p>	<p>入所時には重要事項説明書を読み上げて説明されており入所後の方針を理解されている。重度化され始めた頃からは再度、今後の方針を主治医と話し合われるようにされており、その際、家族の要望もよく聞かれた上で、事業所内での看取り支援が可能なのか、あるいは治療や療養入院されるかの決定がなされる。</p>	
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>マニュアルを作成し、周知徹底している。また、消防署職員の方に来ていただき、救急救命講習を受講している。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回避難訓練の実施また、水害避難訓練も実施している。運営推進会議の際には、地域の方の協力が得られるように働きかけている。現在運営推進会議は、内部開催なので地域の方への働きかけは、出来ない。開催できるようになれば、また働きかけて行きたい。</p>	<p>年2回の避難訓練を実施している。内一回は消防署員の立ち合いを得て指導してもらっている。火災時の想定では利用者全員が建物の外に出ている。水害対策としては建物が鉄筋である事から3階への避難を考えている。地域の協力を求める事も視野に入れている。</p>	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>利用者様に対応中は、他者に見られない・聞こえない、様に細心の注意を払いプライバシーの保護に努めている。</p>	<p>利用者の立場で考えるようにされている。特に言葉使いの影響力の大きさをよく勉強されており職員にも常によく指導されている。トイレ誘導には特別の心くばりをされておりプライバシーの確保に務められている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>利用者様と密にコミュニケーションを取り、信頼関係を深め、思っていることを口に出して言えるように支援している。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食事や起床時間、入浴、散歩は1人ひとりの時間や体調、気分に合わせて支援している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>毎朝、整容に努める。気候に合った衣服を着用して頂ける様に支援している。また、移動美容室に二か月毎に来ていただき、カットや顔そり等をして頂いている。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>味付け以外でも、見た目の彩りや盛り付けにも気を配り、食事が楽しくなるように工夫している。個人の誕生日には、好物のメニューを提供している。出来る方には、食事の準備や片づけと一緒にして頂いている。</p>	<p>調理された食品を見た目も楽しく食をそるよう盛付けに工夫を凝らされている。皆と一緒に食事をすることの大切さも理解されており、利用者にとっては楽しい一時といえよう。食事の手伝いができる人は限られているが、小さなことでも何かをしてもらうように考えられてはいる。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>個々の摂取量に応じた盛り付けを行い提供している。また利用者様の嚥下状態にあった食事形態にしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、口腔ケアを実施している。自己にて行える方は、声掛け、見守りを行っている。出来ない方は、職員が介助している。定期的に訪問歯科による診察、歯科衛生士による口腔ケアをしていただいている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>利用者様、個々の排泄パターンを把握し、またできる限りトイレでの排泄を継続できるように努めている。失敗を減少させるため、定期的な排泄誘導や声掛けを行っている。</p>	<p>排泄チェック表に従った定期的な声掛け誘導は自立にむけての有効な手段でもあるとされている。トイレまでの誘導やトイレ内での手助けも含めて、排泄の自立支援が行われている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>なぜ便秘になるのか、また便秘になったらどのように体に影響が出るのかを学び、水分量をアップしたり腹部マッサージ等をし、便秘回避に努めている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>利用様一人ひとりに希望を聞き、希望に沿って入浴して頂いている。リラックスして、気持ちよかったと言って貰えるように支援している。</p>	<p>利用者は週2回(一回30~40分)入浴している。湯はその都度入れ替えされている。最新の機械浴槽も設置されている。入浴を拒む方は時間差で誘うように図られている。</p>	

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>ご自分のペースで、自由に過ごしていただいている。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>全職員が、利用者様の既往歴を把握し服用している薬がどんな作用をもたらすのか理解している。症状に変化があれば、すぐに報告し指示を仰いでいる。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>ホームでの行事を増やしたり、リモートで外部との交流をしている。また家事作業等を職員と一緒にして頂いている。</p>		
49 18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>コロナ蔓延以前は、外出行事等もあり、また毎日のように河川敷に散歩にも出かけていましたが、現在は、施設の前のお地藏様に手を合わせ、施設内を一周の散歩を実施しています。気候の良い季節には、青空ランチをしピクニック気分を味わって頂いています。</p>	<p>事業所の周辺は広々としており散歩しやすい環境にあるといえる。建物の周りを一周したり、少し離れた所には、お地藏堂があったりして外出支援にはうってずけである。中には堤防を超えて河川敷まで行く方もいる。春秋の穏やかな昼にはテーブルを外に出して昼食をする青空ランチもある。</p>	
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族様と相談し、利用者様の能力に応じた対応で支援している。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>携帯電話を持参されている方は、自己にて電話をかけておられる。持っておられない方は、事務所の電話を使って、外部へ電話しておられます。</p>		
52 19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間は、常に清潔を保ち、利用者様の動線は、広くとって安全に移動できるようにしています。季節感を出すために、掲示物は季節に合ったものを飾っています。日中は、窓から自然光が入り、自然な明るさを維持し明るくなりすぎないように工夫している。</p>	<p>明るさは程よく採光はリビング全体を柔らかく包み、落ち着きを与えてくれる。壁には利用者と職員が一緒に作成した作品が飾られている。共用空間はゆったりとした落ち着きを感じさせる雰囲気にも包まれていて、長時間寛げる場所として提供されている。</p>	
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>利用者様同士が、交流が出来る様に状況に応じて席替えをしたりしている。</p>		
54 20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入所時に自宅でご使っておられたものを持ってきていただき、自宅でご使っていた頃のような雰囲気を作り、居心地よく過ごして頂くようにしている。</p>	<p>居室には馴染みの家具や好みの物が設置され自分用の部屋作りがなされている。掃除は週3回、シーツ交換は週1回(汚れたらその都度)交換される。利用者にとっては自分だけのプライベートな空間といえよう。</p>	
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>日常生活に必要な所(トイレ、居室等)には、表札を出し少しでも自立した生活が送れるように工夫している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている (参考項目:9,10,19)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの 拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思 う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思 う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

ホーム名: グループホーム 柏原 つどい					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様の事を常に第一に考え、心のこもった接遇を心がけている。職員全員が、利用者様の思いを汲み取れるように、常に利用者様に寄り添ったケアをしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在コロナの為、地域自体が行事等を開催していない。コロナ前は、行事等にも参加できていたので、終息後は、積極的に地域の方と交流をしていきたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の掃除や外出時には、スタッフからの挨拶を心掛けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は、コロナの影響で施設内開催になっていますが、以前の様に開催出来るようになれば、以前の様にご指導頂いた事は、ホーム内で検討し、サービスにいかしていきたい。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	研修等があれば、積極的に参加している。また、サービス等について相談し、意見等を頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	定期的に委員会からの勉強会があり、拘束に対しての正しい理解を、職員一同が出来るように取り組んでいる。		
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所などでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に委員会からの勉強会があり、虐待についての理解を深める機会をつくり、防止に努めている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護や成年後見人制度について、の研修会等に参加し、理解を深めている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、疑問に思われる事や不安な事をお聞きして、時間を掛けて納得が行くまで説明させて頂いている。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>常に利用者様、家族様が意見や要望を言える雰囲気づくりに努めている。問題があれば、職員全体でカンファレンスを行い、解決に向けてすぐに行動を起こすようにしている。</p>		
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>ミーティングや会議時、職員との個別面談時に意見や提案を発言する機会を設けている。</p>		
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>努力や実績が認められた場合、給与や賞与に反映されている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月1回職員研修を行い、職員全体のスキルアップに努めている。定期的なフロア会議の際も勉強会を行い、技術・知識の向上に努めている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>外部研修等には積極的に参加し、他施設と交流できる機会を作り、意見交換をしサービスの向上に努めている。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>面談を頻回にし、コミュニケーションを図り、良い信頼関係を築けるように努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービス開始時には、安心してホームへ来て頂けるように、不安や要望があれば、解消されるまで説明している。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご本人の状況の把握に努め、十分に検討し、入居以外の選択肢もある事を助言している。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ご本人で出来ることはして頂き、家事作業等も職員と一緒に出来ることはして頂いている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>以前は面会に来て頂けるように声を掛けさせていただいていましたが、現在は、コロナの為、面会制限をしている。何かあれば頻回に連絡を取り、報告や意見を頂くようにしている。また、家族会の活動には協力をして頂いている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご本人が入居前に築かれた人や場所には、入居後も関係が途絶えることなく継続できるように支援している。</p>		
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同志が、交流を深められるように座る場所を考えたり、交流ができるようなレクリエーションを常に考えている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービス終了後も近況の確認の電話をして、関係を絶たないようにしている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人がこういう風に暮らしたいと言う思いに沿えるように努めている。ご本人の意思確認が困難な場合は、今までの生活歴等の把握に努めまた、家族様の意見も確認し本人本位に検討をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	利用者様や家族様に聞き取りを行いながら、チームで生活歴等を共有し、その方らしい生活が送れるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現在の状況の把握の為に、定期的カンファレンスを行ったり、介護記録を元に職員間で情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族様、ケアチーム等でモニタリングを行い、現状を把握し問題点を改善してより良く暮らしていただけるように介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、利用者様の個人の介護記録にその日の体調や、気づいた事などを記入し、カンファレンス等に反映している。		し
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対しては、柔軟に対応できるように日頃から取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の現在、ボランティアに来て頂くのも難しいですが、リモートで近くの幼稚園児との交流等を開催して頂き楽しんでいただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様・家族様の同意のもと、24時間体制で診てもらっている。		

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>利用者様に変化があった場合は、看護師に状態をすぐに報告し指示を仰いでいる。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>現在コロナ禍の為、面会が出来ないので担当看護師や、地域連携室の相談員の方と頻回に連絡を取り、情報交換をしている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>主治医を中心に、訪問看護師、ケアスタッフ、家族様と十分話し合い利用者様に一番良い方針を考え支援している。</p>		
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>マニュアルを作成し、職員一同が周知徹底出来る様にしている。定期的に研修を行い、スムーズに対応できるように訓練している。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の避難訓練や水害等の避難訓練を実施し、実際に災害にあった時に、すべての職員が対応できるようにしている。また、運営推進委員会の開催時に災害があった時は、協力をして頂ける様にお願いしている。</p>		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>利用者様個々の人格を尊重し、またケア中は、プライバシー保護の為、他者から見えない・聞こえないように対応している。</p>		
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>利用者様と頻回にコミュニケーションをとり、その方の意向をくみ取り、自己決定が出来る様に援助している。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>個々の日々の生活に職員が合わせる支援をしている。食事や入浴等ご本人のペースで支援している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>毎朝、整容に努める。また衣類も清潔なものを着用して頂いている。移動美容室に2か月に1回来ていただきカットや顔そりをして頂いている。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の味付けや、盛り付け等見た目も食欲が出る様に工夫している。食事の準備や片づけは、出来る方には手伝って頂いている。</p>		
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>利用者様個々の摂取量に応じ栄養バランスの良い食事を嚙下状態にあった形態で提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>食後には、口腔ケアを実施している。月2回、訪問歯科や歯科衛生士に来て頂き、口腔内の清潔保持に努めている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個々の排泄パターンを把握して、トイレの声掛けをし、失敗の軽減やトイレで排泄できるように努めている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排便確認は、毎日行っている。排便の無い時は、水分アップや腹部マッサージ、適度な運動等で排便を促している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>利用者様の入りたいと思われるタイミングで入浴して頂き、リフレッシュして頂いている。</p>		

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>利用者様個々のペースで過ごして頂いているので、自由に昼寝をしたり、休息したりされている。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>職員個々が、利用者様の薬について理解をしており、変化があればすぐに、医師や看護師、薬剤師に報告を行い指示を頂いている。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>以前は、季節に応じた外出行事や、買い物・散歩等に行ける環境を整えていたが、現在は、コロナ禍の為、施設の周りの散歩と施設の敷地内の青空ランチなどで、気分転換をして頂いている。</p>		
49	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>ご本人が行きたい所があれば、出かけられるように支援している。普段行けない所を希望される場合は、家族様と連携を取り希望をかなえられるように支援している。</p>		
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族様と相談し、利用者様の能力に応じた対応で支援している。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者様の希望があれば、電話をかけたがり、手紙を書けるように支援している。</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用の空間は、窓やドアを透明にし外からの光が入り、日中に自然な光が入り、落ち着いた雰囲気になるようにしている。フロアには、季節感を出すように季節に応じた掲示物を飾り、季節を感じて頂く。</p>		
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>利用者同士の交流が持てる様に、その時々によって席を変えたりしている。憩いの場として、ゆったりと自由に過ごして頂けるように工夫をしている。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入所時に、ご本人が使っておられた物を持ってきて、自宅で過ごされてい居た時のような雰囲気作りをしている。今まで使っていた物を置くことで、自宅で暮らしていた延長線上のようにし、居心地よく過ごせるようにしている。</p>		
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレや居室等は、わかりやすいように表札を出している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている (参考項目:9,10,19)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない